

作品の概要

■増加している乱用薬物の摘発件数

毎日、約500機の旅客機が離着陸し、約9万人の旅行客が利用している成田国際空港。その人や荷物に混じって日本に運び込まれている乱用薬物。

東京税関では、乱用薬物が日本に入ってくるよう24時間体制で厳しく取り締まっている。

数名の中学生が東京税関・情報ひろばを訪れ、乱用薬物について詳しく調べ、学んでいく。

以下、中学生男女のナレーションで進行していく。

■乱用薬物って どのようなものなの？

押収された様々な乱用薬物——。

これらの薬物は乱用薬物といって、法律でも厳しく禁止されている。これらの薬物を遊びで使ったりすることを薬物乱用という。

では、一回でも乱用薬物に手を出したとすると、身体にどのような影響がでるのだろうか。

ここでは乱用薬物が脳に達した後、神経細胞の情報伝達のしくみを、どのように乱していくのか、どのようにして「薬物依存」になってしまうのか、分かりやすいCGで詳しく説明する。

薬物依存者のための更生施設、川崎ダルクを訪ね、薬物依存を体験した人から、実際、身体にどのような影響がでてきたかも聞き出していく。

■乱用薬物を始めたキッカケを薬物依存体験者が語る

乱用薬物に手を出すキッカケは、ほとんどが、最初は遊び半分でタバコや酒、そしてシンナーをやり始めていること。乱用薬物を使い続けていると幻聴や幻覚などが現れることなど、乱用薬物の怖さを訴える。

■乱用薬物に対しては外国でも厳しく罰せられる

最近、外国のある国では、日本の若者がトランクに乱用薬物を隠し、海外に持ち運ぼうとして、次々に逮捕されている。日本の若者は、どのようにして乱用薬物の運び屋になったのだろうか。逮捕した若者を調べている検察庁を訪ね、聞いてみる。外国の乱用薬物の売人は、海外旅行や留学中

の若者を狙い、小遣いやプレゼントを渡して親しくなり、乱用薬物の運び屋にしようとしているのだ。外国では乱用薬物を海外へ持ち運ぼうとすると、無期懲役、死刑になることだってあることを訴える。

■薬物の正しい知識を身につけよう

東京税関を訪れた中学生たちは、乱用薬物について、様々なことを学んだ。最後に税関職員は中学生に向かって力説する。

「誘惑の手が伸びてきたら自分に自信を持って、ハッキリと断る勇氣を持つことです。」

監 修 国立大学法人兵庫教育大学大学院
学校教育研究科教授 鬼頭英明

指 導 財団法人日本学校保健会
事務局長 並木茂夫
前・埼玉県川口市立十二月田中学校
教諭 佐藤恵子

取材協力 東京税関
川崎ダルク支援会
仁川空港税関
仁川地方検察庁

資料提供 関東信越厚生局 麻薬取締部

製作統括・監督 高木裕己

撮 影 堀田泰寛
淵上 拳／高橋哲也

韓国撮影 權 彝 (Kwon Lee)

制作・著作 株式会社映学社

■ ライブラリー価格 ¥68,250円 (税込)

■ 学 校 価 格 ¥26,250円 (税込)

■ VHS・DVD [カラー約19分]

■ 2010年・映学社作品